

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社 グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉 グループホーム湯之崎／ユニット えびす		
所在地	長崎県雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成21年12月5日	評価結果市町村受理日	平成22年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職種から考えれば当たり前の事であると思うが、早期発見・早期治療の視点より出来るだけ入居者様の体調を把握し、受診や通院には力を入れていると思う。入居者様それぞれで月に受診をする回数は違って来るが、受診によって健康管理も保たれていると思うし、できるだけその時の要望に副ってスケジュールを組む努力をし、できている方だと思われる。ホーム内では外出や月毎の行事を開催し気分転換を図れていると思われる。(楽しんで頂けているかは別として)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の楽しみのひとつである食事が全て手作りで有り、利用者の残存能力を活かして買い物・準備片付け等利用者とともにっており家庭的で明るい環境である。利用者がどのように過ごしたいか利用者の気持ちを尊重しながら支援し、利用者の暮らしぶりを伝える便りを家族全員に届けている。かかりつけ医との医療連携も取れており、健康管理を行っている。重度化した場合の対応に係わる指針や看取りの指針も具体的に示され、早期から家族と医師や職員と話し合われている。自治会長を通して地域との繋がりが多く見られ、利用者が入所以前からのお付き合いや場所の継続があり地域に根付いた事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの基本理念がある ホーム内(玄関や事務所)に掲示があり職員はいつでも確認できる	職員は「その人らしさを尊重する」を日々の申し送りや月に一度のミーティング時に利用者本位の支援であることを確認しており、毎日利用者の生活を最優先に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節感を味わう事ができる行事や地域での催し物へ外出したり交流を図っている	地域の祭り、イベントには参加をしており、年末に事業所で行う餅つき会でついた餅を近所に配るなど交流している。又、地域への認知症についての説明会を自治会長、民生委員向けに行い、理解を広めるための活動も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の日常生活支援を第一にしつつ、地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか、考える努力を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者は自治会長・民生委員・ご家族代表・地域包括支援センター職員等で構成され、入居者様の近況報告・苦情対応の報告等を行い、会議での意見を現場に戻し活かす様に努めている	運営推進会議は2ヶ月に一度、開催している。会議で出された職員待遇の改善、外部研修への参加が必要との意見をもとに運営に活かすよう努力している。また、自治会長の仲介により子ども会とのかかわりが持てるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在運営推進会議以外での具体的な取り組みはなし	自己評価では具体的な取り組みはないとあるが、小浜支所にある包括支援センターとは利用者の状況を報告し、相談を行っており、市町村との協力関係を築く取り組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとなっている 入居者様の状況より夜間のみセンサー使用行っているが、入居者様の動きを見守る体制ができています	身体拘束ゼロの研修は施設長が受講しており、来年度の研修は職員が受講する予定である。職員会議で話しているが、職員の理解はまだ不十分であり、今後勉強会を行う予定である。	勉強会、研修受講などにより身体拘束とは何であるか、どこまでが拘束なのか、全職員が理解し、利用者の尊厳重視の支援となるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等には常に参加を心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は対象者はおられないが、今後の事を考え学ぶ機会を設ける必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はその契約時、改定の際はその都度文書等にて正確に説明させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がある ご家族の来設時は意見や要望を抽出する機会を設ける努力をしている	苦情発生時点ですぐに取り組むようにしている。家族の意見、苦情受付窓口は明らかにしており、説明している。ただし、解決までの流れが明らかになっていない。	家族の意見、苦情に対して事業所としての対応や検討、反省など表明した家族に報告するまでの流れを文書化するなど明らかにすることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング(ユニット毎に開催)や日に2度の申し送り時を利用し職員の意見を求める場としているが、職員側が常に意見や提案を出しやすい雰囲気を作れているかどうかは不明	職員の意見や提案を聞く機会は月に一度のミーティングであり、出された意見、提案は集約し、運営に反映するようにしている。ただし、現状では職員の意見や提案が出てきていない。	職員の意見や提案が表明しやすい場づくり、機会づくりを工夫してもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最終的には入居者様の為になる事でもあり、一番力を入れて鋭意努力を続けているところである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は難しい状況である 研修へ参加した職員は報告書の作成を行い、ミーティングで報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームのお茶会に伺ったり、当ホームでのもちつき大会等にお呼びしたり定期的な交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の情報を元に御本人にお聞きしたりもするが、言葉にされる方は少ない為ADLの中から困難な事や不安な点を職員が探ったりしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前より面接を行い日常の生活を伺う 1ヶ月に一度受診状況や暮らしぶりを書面にてご家族へ伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	月に一度の近況報告にてどういった生活を送られているのか伝えた上でご家族の希望等を伺う様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人それぞれの出来る事・出来ない事を把握し、出来る事に関しては積極的に取り組んで頂ける様にサポートし出来ない事はフォロー等加えストレスにならない様に心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加を呼びかけたりし、ご希望や必要性があれば病院受診にも同行して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆どの方が御本人様や御家族様からの希望にて知人との交流やご自宅等への外出を行っている 又その際には御家族様が同行される等の協力をして頂いている	利用者の幼な馴染、親戚、同級生などの訪問がある。家族対応が最適ではあるが、困難な場合は盆暮れの墓参り、美容室、自宅近くまでは職員が同行するなどして、馴染みの場や人との関係を継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で出来ない所を助け合う場面はよく見られる しかし難聴の方等は入居者様同士では難しい様である為職員が間に入る等し、関係作りをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム行事・催し物等へのお誘い、季節のお便り等を通して窓口を開いておく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話からの引き出しで希望等を伺いご希望に副える様な支援、それに近づける相談を行い意思確認を都度行っている	発語困難、意向を表出できない利用者には家族に相談するほかに職員は四六時中聞き取り感じ取る姿勢を保っている。そこで把握した情報は日誌に記入し、職員全員が確認し情報を共有し支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話からの引き出しや御家族様を交えての談話(職員も加わって)からお話を伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・バイタルチェックの実施 ・内服薬及び外用薬についての知識を深める(副作用・使用方法等) ・申し送りによる状況の把握 ・個別での様子観察		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月一回のミーティングでの情報交換や話し合いで決め事を行っている ・個人別に担当者を決めておりより深く個々の理解に努めている ・近況報告での問題提起・相談等行っている	利用開始時は暮らし方の希望や意向のほかにこれまでの生活について家族、本人からケアマネジャーが聞き取り記録している。その後アセスメントを取り、担当者や関係者の意見やアイデアをもとにプランを作成し3ヶ月に1度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌を使い、心身の状態・出来事を記入し、日々の状況をわかる様にし、申し送りでの伝達も行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様の希望があった時には御家族様・職員による対応や同行による実現に取り組んでいる 又、御家族様来訪時宿泊される事もありゆったりと過ごして頂ける様可能な限り支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買出し等で一緒に外出して頂いたり祭り等に参加する等して社会との交流を図って頂く 希望があれば美容院やショッピングセンターへの外出を介護職員や御家族様と一緒に行為れる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を知った上で現在の受診の希望をお聞きし、通院の方法等を検討し、受診を行っている	利用開始以前からのかかりつけ医の継続や個々の状況に合った医療機関を話し合い移行する等、希望に沿った支援をしている。協力医療機関をはじめ連携が取れているが、緊急対応は一部の医療機関が24時間対応可能である。	緊急の際は、かかりつけ医以外の対応も予想される。事前に本人及び家族と話し合い、緊急時かかりつけ医以外の受診に承諾を得ることを期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が導入されてまだ間もない事もあり、介護職と看護職との連携は取れていない様に思われる 今後、入居者様に対する最も必要だと思われる支援を各専門職から見出し協力して行える努力をすべきである		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様に各々かかりつけ医がおり定期的な受診に加え、体調不良やけが等の状態に合わせて専門医を受診する等している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医等医療関係者からの情報を元に、御本人様や御家族様の希望をしっかりと聞き、我々介護職員がどの程度までの支援が出来るかを話し合う事が大事であると考えている	「重度化した場合の対応と看取りに関する指針」が具体的に示され、本人・家族と話し合いの上同意を得、署名も確認出来た。看取りについて家族と話し合い、医師や職員・家族と共に連携を取り合いながら支援している。看取り後の職員への精神的フォローも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成しているが、実技・訓練等は行っておらず実際にマニュアル通りに出来る職員は少ない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している	年に2回消防署立会いのもと非難訓練が行われ、同ビル店舗と合同で避難訓練や夜間を想定した避難訓練も行われている。地域の避難場所も確保されており、緊急連絡網も整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の必要な話の場合は居室に訪室して行ったり、記録中に席を立つ際には個人日誌を閉じる等お一人お一人のプライバシーを尊重している	職員は尊厳を重んじ、職員間で言葉かけや対応を注意し合っている。トイレの誘導時等傷つけ無い様さりげなく誘導している。個人記録はイニシャル表示し所定の場所に保管し、写真掲載は家族に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様はその日の体調や行きたい場所等を職員へお伝えして下さったり、その時その時の気分でTVを見たり居室へ入られたりしている どうしていいかわからない方にはこちらから希望を聞きだす様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診がある日/ない日を見て入浴等の相談をしている したい事等を言われる方/言われない方いらっしゃる為お一人お一人のペースを掴み、なるべくご希望通り過ごして頂ける様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	下着等が外に出て気づかずにおられる時に声かけをしたり、誕生日会等は御本人様の要望を取り入れ衣類を一緒に選んだり、髪は御本人様にて梳いて頂いたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味が薄い/濃いといった言葉も聞かれるが味見をしながら調理を行い味付けが偏らない様に心がけている 後片付け等は会話をしつつ行い、時にはレクリエーションにおやつ作りを取り入れたりして楽しんで頂いている	献立は利用者の嗜好やアレルギー等考慮し、好みや食事量等工夫している。買い物は利用者と一緒にいき、利用者の力を活かして食事の準備や片付けを利用者とともにやっている。利用者とテーブルを囲んで同じ食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の必要な水分量、身体の状態を見ながら対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は職員が付き添って行い、介助が要らない方は見守りのみ行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・おやつ前・食事前等の時間を決め随時のトイレ誘導を行い、日中・夜間でパッド・オムツ・リハパン等の使い分けを行っている ・パッド装着が上手いかわからない方には尿漏れを防ぐ為パッド装着の介助を行う	トイレ誘導を時間を決めて行い、個々の身体機能に応じてパッド・おむつ・リハパンを時間帯で使い分けている。おむつ使用の利用者をポータブルでの前誘導をし排泄をスムーズにする等自立にむけた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動等の声かけを行い体を動かして頂いたり、食事等で食物繊維を多く含むメニューを立てたり水分補給の声かけを随時行っている 排便チェックを毎日行い必要に応じて医師へ相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・皮膚疾患がある方がいる為温泉・水道水の使い分けを行っている ・職員介助で入浴される方が多くなった為御本人様の希望される時間帯に入れない事がある	入浴は毎日可能である。温泉浴を楽しむことができ、皮膚疾患のある方は水道水のお風呂も準備されている。脱衣所の室温やお湯の温度も調整し、入浴介助や同姓介助等個々の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間眠れない方へは飲み物の提供をしたり、しばらく話を傾聴しゆっくりした時間をとって頂く ・前夜睡眠不足の方は午睡の声かけ行う ・日中の活動量を考え職員にて声かけ行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には必ず職員同行し医師からの指示を受診録へ記録する 受診後は申し送り等で全職員へ受診内容・薬の機能等を伝え全職員が理解した上でケアに当たる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・御本人様が得意分野の作業をお願いし作業終了後は感謝の気持ちを伝える ・各入居者様の誕生日には誕生日会を開いたりドライブや外出等で気分転換をして頂く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様から外出希望があった場合出来る限り対応し職員同行しており、食材の買物等声かけし外出の機会を多くとって頂いている 又、近隣でのお祭りや行事には出来る限りお誘いし楽しんで頂く様にしている	日常利用者は食材の買い物や散歩に出かけている。自宅が近所にある方は家族に会いに同行する等希望に沿った支援をしている。車椅子の方は職員と近所に出かけ外気浴を楽しんでいる。外食の支援や近隣のお祭りや行事にも出かけている。	

おばま温泉 グループホーム湯之崎(ユニットえびす)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて銀行や買物への同行を行っている お金を所持したい希望があるが盗られ妄想のある方にはいつでも出せるという説明にてホームでの預かりを了解頂き出入の都度出納帳での確認をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中(残暑)見舞いのはがき作成の支援にて御家族様や身近な方との交流ができる様に図っている 電話の希望がある場合も職員が間に入り支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にも協力頂き、居心地の良い空間作りを目指している	共用空間は暖かみが有り明るい。利用者の季節ごとの手作りの作品が置かれ、ソファはゆったりと過ごせる様配置し、海を展望出来る空間を設け癒しの工夫が有る。加湿器が置かれ、食堂では手作りの五感の刺激が有り家庭的で居心地が良く、トイレや浴室も清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作業やTV・音楽鑑賞等共通の話題作りに努めている その時々に応じてリビングの自席/ソファや居室等居心地のいい場所で過ごして頂ける様な声かけ・工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されていた馴染みの物(布団や筆筒等)を御家族様の協力の下使用して頂ける様に努めている	利用者が以前から使用していた布団やタンス・ソファ等馴染みの物が持ち込まれ、要望に応じて家族の写真やポスター・作品等置かれている。室温や空調も職員が居心地良く調整し、部屋は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事作りや食器洗い、洗濯物たたみ等入居者様にできる事は実施して頂いている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社 グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉 グループホーム湯之崎／ユニット ほてい		
所在地	長崎県雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成21年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号大同生命長崎ビル8F
訪問調査日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様お一人お一人で認知症や身体機能のレベルが大きく違う為、それぞれに合った介護・介助を行う様努めている ・入居者様の全ての行動を介助するのではなく今ある身体能力を落とさない様見極めながら必要最小限の介助を行う様に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム玄関等に掲示されている為いつでも確認する事が可能であり、共有する事ができる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会での子ども会の出し物、年末の地域の方々との餅つき大会等、日常的にはないがイベント時等の交流有り		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内のみで、地域の方々に対しては活かしていない 今後地域との交流があった場合、意見交換の場等を設けてみたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則2ヶ月に1回実施 入居者様の近況報告、参加行事の報告、苦情対応の報告等を行い、これらは会議録へ落とされ現場にて活かされる様になっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在運営推進会議以外での具体的な取り組みはなし		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいると思うが、今一度全職員にて『介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』の再確認は必要である		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の注意・防止には全職員努めていると思われる 学ぶ機会についてはそういった研修がないか検索し受講、全職員へ伝達周知理解に努める		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員)学ぶ機会がなくそれら制度を活用した支援ができていない 今後そういう内容の研修がある場合はこれを受け又伝達していく 管理者)実際に権利擁護とは何かを知っている職員が少ない状況である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている ホーム来設時、又は来られない場合も電話・文書での説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム御来設時等に意見・要望を言って頂ける様な雰囲気はあると思われ、実際色々な意見を頂いている しかし、ホームの方よりご家族様へ意見を求める事はあまり行っていない		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング(ユニット毎に開催)や日に2度の申し送り時を利用し職員の意見を求める場としているが、職員側が常に意見や提案を出しやすい雰囲気を作れているかどうかは不明		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最終的には入居者様の為になる事でもあり、一番力を入れて鋭意努力を続けているところである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めてはいるが、十分なシフト体制でない為に時間が充当できていないのが現状である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員)現在主だった交流が少なくなっている 地域のイベント等に積極的に参加し同業者の方々との交流を作っていく様にする 管理者)再び半島内のGH協議会が統一される事となり交流の場も増えると思われる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後まもなく居室にて転倒され居室が恐怖の場となってしまう以降入眠できなくなり職員より障害物は全て除き安全である事を随時声かけし徐々にではあるが入眠される様になる より一層安心して頂ける様努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に耳を傾けている キーパーソンになる関係の方が存在しない方の入居があり、一番近い親類の方の希望は一切関わりたくない、という事であった そういう場合にも一番いい方法を考えさせて頂いた		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に対して不安がある場合等は体験的な入居扱いとし、温泉で湯治する目的でという説明にて安心感を抱いて頂いたり、それまでの習慣であるリハビリを継続できる様に支援したりしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲は自力で行って頂き出来ない部分の介助にあたる 他入居者様との会話を引き出したり、イベント等で触れ合って頂き少しずつ関係を築いていける様に努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の誕生日を始め、イベント等にご家族を招待したり、病院受診に同行できる際はなるべくお願いする様にしたり関係を良好に保つ様努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだご自宅がある方等はご家族や職員同行にて帰宅の支援をしたり、墓参り等へお連れしたり、その際にご近所の方と会われたりして喜ばれている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年に入ってお二人の新しい入居者様が加わり入居者様同士の関係はまだまだ深まっていないが、言い合いも含め会話をしていく中で少しずつ関係を築いておられる 職員は円滑に行くように間を取り持っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなってしまった入居者様のご家族へ、当ホームにいらっしゃった頃の写真をアルバムにして届けたり、転居される場合は転居先への介護サマリーは欠かさず提出する様にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある方には、ご家族やその方が信頼される方にご協力頂き安心できる場の提供を目指したりしているが、全員が本人本位の希望通りに暮らされているとは言い難い(ご家族本意の場合もあり)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されたらまずはアセスメントをとる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新人職員が多い為心身状態までは行き届いていない部分もあるかもしれないが、職員は懸命に今できる事を行っており、お一人お一人の事を把握しようと努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人お一人に担当者を決め、その担当者はもちろん他職員参加してのミーティングにおいて、現状を計画作成担当者へ報告し介護計画を見直し・作成している ご家族へは送付し、来設時に説明し同意を頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大変細かい記入でもあり、後々の見直しにも大変役に立っているが、職員はその記録に追われているところもあり、見直しが出来る部分は行なっていきたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の看取りの時期がやってきて、その場で意見が変わるご家族様に合わせ、出来る限りの支援に取り組んだ 今後も予期せぬ変化や事例、ご家族のご希望に出来る限り対応していきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員)努力している 管理者)入居の際より引き続き、地域包括支援センターや福祉事務所の担当者に協力を依頼したり一緒に金銭の引き出し等の外出をしたり支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何かあった時にすぐにお願ひできる様なるべく近所にお願ひをしたり、経済的な問題を抱えておられるご家族の負担を軽くできる様医療機関を一本化したり、基本的に入居時かかりつけ医の希望はご家族に尋ねている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている(まだ介護職に就いて日が浅い為情報や気づきを深めていきたい)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医による定期受診を行いつつ、異変がある場合は早急に気付き、医療機関に相談をし常に事前の対応ができる様にしたい 入院の際も早期の退院を目指し、医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員)早めに来る事できない事を見極め、ご家族やかかりつけ医と共に対応したい 管理者)充分かどうかは疑わしいが事業所の出来る事については説明を行っている 地域の関係者とのチームでの支援はできていない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない 職員同士での訓練を行い、急変事故発生時に対応できる様にしたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員)冷静に対応する知識を身につけていきたい 管理者)運営推進会議の場にて話題に出る事はあるが、協力体制が築けているとまではいえない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなど気をつけて話しているつもりではいても、振り返れば傷つけてしまう声かけをしている事がある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている 会話の困難な方には選択肢を挙げ選んで頂くという方法をとったりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側は支援する努力をしているが、入居者様の中には我慢していらっしゃる様子をお見受けする方もおり、そのフォローをきちんとできる様にする必要がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントやお誕生日等は特に気を配っているが、普段からもっと気をつけてお一人お一人の個性を大事にしていきたい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、食後は後片付け等入居者様のレベルやペースに合わせて手伝って頂いているが、手伝って頂く方には偏りがある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣に依ると脱水になるという方もいる為、入居後の習慣にして頂きたく熱心に声かけ行い少しでも多く摂って頂く努力をしている ご自宅で飲まれていた飲み物をお出しする等の習慣に依る支援は行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけがなければされない方も声かけがあれば応じて下さる為ほぼ毎食後できているそれぞれのレベルに応じてして頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でできる方はご自分で、介助の必要な方は必要な介助のみ、行っている 排便自体困難な方には排便を行う等の支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に一日の水分摂取量を確実にして頂く事を目指している為様々な種類の飲み物を準備して好みのものを提供できる様にしている それでも便秘傾向にある方には服薬の援助をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数や受診者数によって出来ない日があったり、間の開いている方を優先的に声かけしたりと、入浴日をこちらで決める事が多いのは事実 自力入浴できる方にはなるべく本人の希望に沿うようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子使用の方は一日の内に臥床の時間を決め休息の時間を設け、それ以外の方々も長時間の座位をされない様にソファに移動して頂き少しでもリラックスして頂ける様心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度の所までは理解する様にはしているが解らない部分は調べたり聞いたりする事を心がけ症状の変化の確認を行う様に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日会話をしたり、一緒に洗濯物をたたんだり食器洗い等をしコミュニケーションが取れるようにしているが、男性入居者様や趣味等まだつかめない方々の気分転換に関してはまだまだ工夫が必要である		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様からの希望があればなるべくその時に対応し、言われない方は職員の人数と天候・入居者様の体調等を確認して行ける時に声かけを行い外出支援を行っている 週に1回は外出出来る様心がけたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のご希望に応じて買物同行したり、必要な物をお聞きして代わりに買物に行き金額を伝えて了解して頂く様にしている 又、お金を使う能力を失った方も持つ事による安心感を得られている方もいらっしゃる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望あれば職員が話のできるまでに対応したりしている 手紙の支援はできないが、月に一度の近況報告にてご家族への要望があればお聞きして代筆する様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に表札をつけ、トイレ等には大きめのトイレマークをつけて判りやすい様にしている 季節感に欠けたところがある為、その点を今後工夫していきたい		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には居室へ帰られたり入居者様同士でテレビ鑑賞や談話、ちょっとしたお手伝いをする為皆様に寄り合っては会話しながら楽しまれて過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居者様とご家族の要望に応じて居心地よく過ごして頂ける様に職員が支援しつつ行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれに出来る事を手伝って頂いたり、ご本人ができる事は職員はなるべく手を出さず必要な部分のみ介助を行う様努めている		